

【CSW55 第6日目】2月25日(金)

【日 付】2011年2月25日、10:00

【場 所】CCUN 10th Floor

【題 目】Where Buying Sex is illegal: The Nordic Model.

【主催者】Roks

【内 容】世界で最もジェンダーの平等が進んだスウェーデン、ノルウェー、アイスランドの北欧3カ国における買春、性搾取目的の女性・少女の人身売買、子どもポルノ禁止の活動紹介。買春は女性に対する暴力である、との信念からスウェーデンは1999年、ノルウェーとアイスランドはともに2009年に買春を非合法化した。その結果、路上売春や組織犯罪、男性の買春の減少などの改善がみられた。しかし、ソ連崩壊後は東欧からさらに現在はアジア・アフリカから女性が性的搾取目的で人身売買されるようになっており、そのルートも手口も絶えず変化していること、買春禁止法の刑罰が比較的軽いことなど継続して取り組むべき課題もある。

【感 想】売買春をめぐる議論は女性の権利運動の中でも最も議論の分かれるところである。売買春を非合法化すれば、地下に潜って女性の状況を一層悪化させるだけであるし、ILOが提唱するように売春を「セックスワーク」と認め、労働条件の改善を目指す試みも、問題を完全に解決できる訳ではない。被害者にシェルターや、裁判を受ける権利、教育・雇用の機会を提供するなど、きめ細かい支援が必要であることを再確認した。(吉田)

【日 付】2011年2月25日、14:00

【場 所】SA Main Auditorium

【題 目】Uniting Against Violence: Girl-centered Approach

【主催者】World Association of Girl Guides and Girl Scouts World YWCA

【内 容】ガールスカウトやYWCAの若いメンバー、UN Womenの方が話した。さまざまな国から集まったユースが、自分の経験などを交えて、Violenceとはどういうものであると思っているのか、また自分の国ではどのようなものであると思われるのかなどを語った。パキスタンから来たYWCAのメンバーであるアーダは、自国では兵士からの暴力があることや、文化を交流させることをあまりよく思わないような風潮があるのに対し、YWCAなどを通して色々な人と話すことで、多文化を知ったことなどを話した。そうして他の文化を知ることは職業訓練や教育の促進にも繋がり、また、教育を支援していかなければいけないなどと語った。

【感想】みんなの話や配られた資料の中に“right(権利)”という言葉が多く見られたと感じた。誰にでも人権というものがあ、それを踏みにじることはだれにも許される行為ではないということを再認識した。女性も男性もが持つ多くの権利の中には、教育を受ける権利はもちろん、暴力や束縛に‘no’と言う権利、暴力を受けず安全に暮らす権利、そして権

利を主張する権利などがある。しかし、教育を受けられなければそういった権利を知らないままに、搾取され、暴力を受け続けなければならなくなってしまう。HIV だけでなく、暴力を防ぎ、減らしていくためにも教育は重要な役割を担っていると感じた。(小山)

【日 付】2011年2月25日、16:00

【場 所】CCUN 2nd floor

【題 目】Women and Education in Asia

【主催者】Korean Institute for Women Politics

【内 容】全部で5人の方のお話であった。韓国や日本の教育におけるジェンダーの問題の現状や教科書の表記、挿絵についての話などがあった。具体的な数字やグラフも交えて発表は行われた。韓国における女性と男性との教育を受ける機会の不均等や、日本の教科書による性のステレオタイプの刷り込み、アジア太平洋における女性の科学や工学へのアクセスの少なさについてなどの話があった。かつての日本の小学校における男尊女卑といえる名簿順(男子の名前順 女子の名前順)についての話もあった。

【感想】韓国の女性教育は日本の女性教育とよく似ているように感じた。韓国の方の発表で、母親の時代には女性は大学に行けなかったといった話なども聞くと、女性はやはり教育を受ける機会が、男性よりも極端に少なかったのだとより感じた。今では日本や韓国では、女性も男性もほとんど同じように教育を受けられているが、まだそうでない国も多くあり、この現状は早く打開すべき状況であると感じた。また、日本の教科書では、他国のものとは違い、家事をしたり子供を育てたりするといった挿絵がほとんど全て女性であることや、父親の育児休暇が一般的でないことなども学び、これからもっと女性=子育て・家事をするといったステレオタイプにとらわれないようにしたいと感じた。(小山)

【日 付】2011年2月25日、16:00~16:50

【場 所】Conference Room B, North Lawn Building

【題 目】Women and Education in Asia

【主催者】Asia Pacific Women's Watch

【内 容】アジア・太平洋地域の各国(オーストラリア、インド、アフガニスタン、パキスタン、スリランカ、フィリピン、マーシャル諸島、中国、韓国、日本)からの参加者が集まって行われた。アジア・太平洋コーカスのステートメント、合意結論案の文言への提案は、提出期限のため、ともにコーカスの Steering Committee によってほぼ完成されており、コーカスの場で一字一句検討する作業はなく、提案があればメールで送付するよう求められたのみであった。主な議題はUN Womenの今後の在り方で、1)UN WomenとNGOとの調整、協議が不可欠であり、NGOの参加の度合いを増やしてほしい、2)機構面においては、アジア・太平洋地域の多様性を念頭において、元のユニフェムのように、ナショナル、サブリージョナル、リージョナル、インターナショナルのレベルできめ細かく対応

してもらいたい、3) 優先課題としてアジア・太平洋地域のニーズ(天災・紛争)等も取り上げてもらいたい、ということであった。また、来年の CSW のテーマである rural women のエンパワーメントは、アジア・太平洋地域に関連の深いものなので、早めに準備を進めたい。

【感想】アジア・太平洋地域という多様性のある見本のような地域はまた、世界の女性の人口の 60%を占めている。しかし、今回の CSW においては、世界 Y 代表団においても、他の NGO においても、やはり英語圏の国々のプレゼンスが圧倒的に高く、アジアは影が薄いようである。コーカスでも起草面でイニシアチブをとっているのが、オーストラリアやインドなど英語圏の国々で、英語が第二言語であることのデメリットを痛感する。今回のコーカスは全く同じ時間帯にアジア主催の平行イベント2つが重なってしまうなど、日程調整面でうまくいかなかったのが残念であるが、残りの日程でなるべくアジア地域主催のイベントに参加したいと思う。(吉田)

【日付】2011年2月25日、19:00

【場所】国際連合日本政府代表部

【題目】CSW NGO ブリーフィング

【主催者】国際連合日本政府代表部

【内容】

0) 自己紹介

1) 木村公使による概要

まず、合意結論案について及び決議の進捗状況について説明を受けた後、4つの女性機関を統合した UN Women への期待と懸念について話を聞き、最後に CSW と UN Women との関係について、現在はまだ議論が分かれているが、今年の夏頃には経社理決議によってある程度固まるのではないかとのことであった。

2) 橋本日本代表の所感

各国の代表は大臣クラスや局長級が多いが、日本は古くから民間人・NGO が代表をつとめている。しかし、今回の CSW のテーマは教育と科学技術なのであるから、文科省からも担当者が派遣されるべきである。日本の課題としては、科学技術分野の女性の進出が遅れていること、クォータ制についての議論には連合からも藩閥があること、ジェンダー統計でも進歩が見られないことなどである。

3) 原さんから NGO の動きについて

昨年度の北京+15 における混乱から、今年は NGO の参加を厳しく制限しすぎた感がある。今年の NGO ブリーフィングや地域コーカス・テーマ別コーカス、平行イベント等について説明した。

4) 質疑応答

NGOの入場制限（1団体にパス1枚）については、江尻美穂子さんも懸念を表明されていた。また、ここでもNGOがUN Womenの創設に力を尽くしたのだから、NGOが参加できる余地を拡大して欲しいとの声が上がった。また、できる限り早くHPに日本語で情報を発信し、また日本としてどうありたいのかパブリックコメントもアップしてもらいたいとの要望があった。

【感想】参加者は大学関係者、日弁連、教会関係者、学生、今回のパラレルイベントの関係者等であった。日本がCSWのビューローの一員でもあり、UN Womenの執行理事会のメンバーでもあることから、一番の関心事である両者の関係について、裏話的な要素も交えて聞くことができたのはありがたかった。ニューヨークではUN Women創設についてお祭り気分で盛り上がっているが、東京とはずいぶん温度差があるようなので、NGOからUN Womenについて積極的に広めてほしいと言われた。女性の権利についての取り組みに関心が薄いことに加えて、日本は国連への拠出額が米国に次いで第2位であるにも関わらず、顔が見えにくい。日本が力を入れている平和構築や経済的エンパワーメントの分野でももう少し各国にアピールして欲しいと思う。（吉田）